

小・中学生の部

【小・中学生の部受賞作】

ひいおじいちゃんのにぎり小バサミ

板橋区立紅梅小学校4年 山崎 紬

ちょっと前に、私の足のうらにうおの目が何こもできました。いたくて変な歩き方をしていたら、おばあちゃんが「とってあげる」とにぎり小バサミを出しました。私はこわくて「ぜったいにいやだ」となりましたが、「ハサミでしんをとるのが一番」と白く丸いしんをハサミのさきでとってくれたら、そこまでいたくなくて本当に治りました。

私の家には、工作に使うハサミ、お肉を切るハサミ、植物を切るハサミ、にぎり小バサミがあります。にぎり小バサミは、糸を切るハサミで、工作のハサミとは形がちがいます。なくなったひいおじいちゃんは、全て手作業でにぎり小バサミを作るしよく人でした。おばあちゃんの家には新潟県の「平成のしよく人」にえられたときのポスターと新聞の記事があって、大小のにぎり小バサミがならんでいる写真がとてもきれいだったので、調べてみようと思いました。

にぎり小バサミの形と見た目

おばあちゃんの家にあるにぎり小バサミの大きさや見た目をくらべてみました。

- ① ハサミの長さ15センチ。刃は約7センチ。右がわの刃が銀色でもうかた方の色は黒い。
- ② 長さ11センチ。刃は5センチ。全部銀色で軽い。
- ③ 長さ10センチ5ミリ。刃は4センチ、軽くて全部銀色。
- ④ 10センチ。右がわの刃が銀色でもうかた方の色が黒。③と長さは同じ。でも重い。
- ⑤ 長さ7センチ5ミリ。右がわの刃が銀色でもうかた方の色は黒。
- ⑥ 長さ6センチ。全部銀色。にぎると手の中にかくれる。

刃のわりあいが長いのと、ちょっと丸いかんじのがあります。全部のハサミにハンコみたいのがおされてへこんでいます。なんて書いてあるかというと、「登録正輝」「芳光特性」「ステンレス」「利久」です。バネはないけど、切った後にすぐの元の形にもどるのは、工作のハサミとちがいます。ハサミは一丁二丁とかぞえます。

にぎり小バサミのできるまで

どうやって作るのかおばあちゃんにきいたりインターネットで調べました。

① 「ちゅうぞう」

強いハサミの地金を作る。

② 「やきいれ」

コークスというものを800度近くまで火をおこして、その中に地金をいれて熱して、熱いうちにハンマーで叩いてあたまを刃の形にととのえます。それを何十回もくりかえしてきれいな形にととのえる作業です。切れるようにするため、刃の部分にはがねをくっつけて火の中に入れて熱し、ハンマーでたたいてのぼしたり、水に入れてひやしたりするのを何回もくりかえします。全部がはがねのもの、刃のところだけはがねをくっつけたものと全部ステンレスのものがあります。ひいおじいちゃんは「ふいご」という火起こしのきかいを使っていたそうです。

③ とぎの作業

ひいおじいちゃんは「こんごうしゃ」というきかいで刃の表とうらを切れるようにというでした。同じ作業をしている動画があったので見ました。タイヤみたいなのがずっと回っていて、しょく人さんがハサミの刃のところをきかいにあてて、ようすをみながらといていました。(これはグラインダーといしという名前でした。)とぐとぐに「ジャー」という音がして火花が上下に飛んでいました。しょく人さんは長そで長ズボンでうでカバーとゴーグルをしています。さいごにハンコみたいなのをおしていました。それがひいおじいちゃんのハサミにあったスタンプで、「こくいん」といいます。作った人や注文した会社のしるしです。こくいんがあると、会社でこんないものがうっているよと自信をもってうれると思います。ひいおじいちゃんのしるしは「登録正輝」です。

④ 曲げ物と仕上げ

「ころばしかけ」をしてきれいにし、さいごに地金をまげてにぎれるようにします。さびないように油につけたら吹き上がりです。切った後にすぐもどるのはしょく人さんのわざです。ひいおじいちゃんのハサミをよこからみるとかた方の刃の先が1ミリくらい上にそって、ぴったりありません。だからよく切れるんだそうです。

かんたんというと、材料を熱してたたいて、曲げて、みがいて切れるようにちょうせつすることがいぢれんの工ていです。

まとめ

ひいおじいちゃんの手サミの色や重さがちがうのは、はがねやステンレスの材料のちがいだと思います。にぎり小ばさみを手作りするしょく人さんのことを「かじや」というそうですが、一日中すわって仕事をするので、たいへんな仕事だと思いました。ステンレスの手サミをきかいで一度にたくさん作れるようになって、一丁一丁はがねの手サミを手作りするしょく人さんは少なくなったそうです。えい画のフィルムを切ったりつりをするとき、にぎり小ばさみが使いやすいと使う人がいるよとおばあちゃんがおしえてくれました。私は大切にしたいと思います。

さんこうにしたもの

三條市「刃物のじゅうみ」ホームページ

三條市平きばさみせい作所の動画

ひいおじいちゃんの手サミと写しん、おばあちゃんの話



神棚
田中 栄七
【上越市】

和弓
植木 俊光
【上越市】

六角巻凧
須藤 成二
【上越市】

握り小鉢
川又 松男
【上越市】

紙風船
磯野紙風船製造所
【上越市】

新潟県文化庁
Nippona Niagara Expo

平成の職人

にいがた技ひとすじの道

9月9日(金)~19日(月・祝)
※18日(日)は休館日です。

代々受け継がれてきた伝統の技や
独自の世界を切り拓く新しい技など、
県内のさまざまな手仕事を見つ
め直し、その道一筋に生きる職人
たちの姿と優れた手業をご紹介します。

●抽選で、作品をプレゼント!!
詳細は、会場でお知らせいたします。

百三彦



**魚の
アートクラフト**
手塚 太一
【同前】

新潟漆器
井村 勝
【同前】

民具
江川 宗夫
【同前】

裂き織り
須田 ヒデ子
【新潟市】

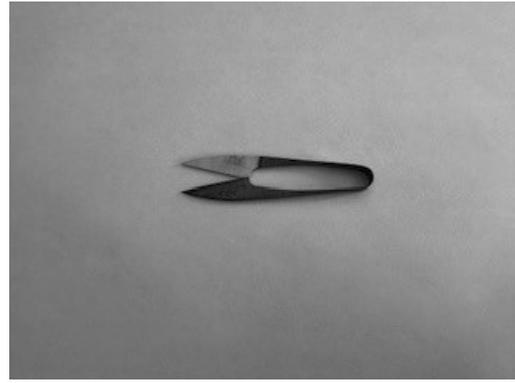


2001年会場風景

東北電カグリーンプラザ
【1Fイベントホール】
お問い合わせ：東北電カグループプラザ
〒951-8533 新潟市上越市南9-84 TEL 0257-223-4658



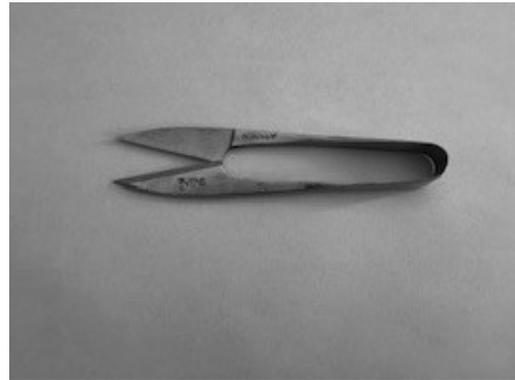
名称不明



守町型パーカー 105mm



長刃型（正輝）105mm



守町型ステンレス（正輝）105m



利久守町型パーカー 75mm



名称不明（携帯用の裁縫鋏）

大きさ比較



粕谷家は地域の宝物。

板橋区立北野小学校6年 坂下 結衣

「粕谷家は地域の宝物。」

これは、私がお話を聞いた中で一番印象に残った言葉です。

母に「粕谷家は園長先生のおうちだよ」と聞いてびっくりしました。詳しく聞いたところ、私が通っていた幼稚園の園長先生のおじい様が暮らしていた家が、今は「旧粕谷家住宅」として文化財になっていることが分かりました。親近感がわいて、調べることにしました。

① 図書館訪問

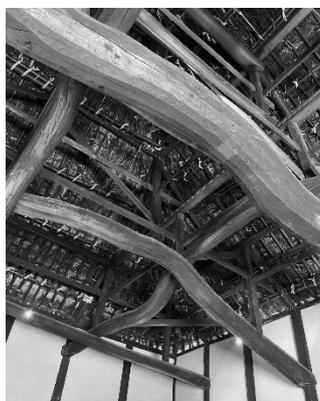
図書館で旧粕谷邸住宅について書かれている本を探し、「いたばしの古民家」という本を見つけました。この本は、写真が多く、分かりやすい内容でした。一番気になったことは、復元工事についてです。旧粕谷家住宅は、1723年から現在までに4回の改修工事が行われています。その後、旧粕谷家住宅が建てられたときの形にする復元工事が行われていますが、私は、なぜ最初に建てられたときの形に復元したのか気になりました。私が住んでいた家だったら、なくなってしまうのが悲しいと思ったからです。

② 旧粕谷家住宅訪問

旧粕谷家住宅に行きました。家の中は冷房が無くても涼しくて驚きました。畳のお部屋にあった机の形がかわいくて印象に残っています。触らせてもらったら、つるつるでさわり心地が良かったです。

上を見るとはりが見えるようになっています。はりより上の部分は昔のままのものと聞いて驚きました。くねくねしていて、かっこいいと思いました。

通常の大黒柱は民家の中心にある大きな柱1本を指しますが、旧粕谷家住宅ではめずら



しく3本の黒柱があります。近くで見ると、太くて迫力がありました。3本のうちの2本は昔のままだそうです。

屋根に使われているかやは、10年に1度変える必要があり、費用は1500万円くらいだそうです。

③ まきば幼稚園訪問

園長の麻実先生に復元工事について聞きました。板橋区の人が、旧粕谷家住宅を板橋区の文化財にしようと調べたときに、思っていたよりも貴重な建物だと分かったそうです。そして、板橋区だけではなく東京都の文化財にもすることになり、そのために最初の形に復元したそうです。詳しく知るには、学芸員さんに聞くといいと教えていただきました。

お話ししてくれた中で一番驚いたことは、旧粕谷家住宅でペルシャ猫とスコティッシュテリアが飼われていたことです。麻実先生は、300年前から続く日本の家に外国の猫と犬がいるアンバランスが好きだったそうです。私もその姿が見てみたいと思いました。

④ 板橋区役所訪問

板橋区の学芸員さんに詳しいお話を伺いました。なぜ最初に建てられたときの形に復元したのか質問しました。半解体調査で改修が4回あったことが分かり、いつの形に戻すか相談して、一番古い形に価値をおいて最初の形にしたそうです。

昔からある旧粕谷家住宅のすごさや貴重さが分かったので、私も旧粕谷家住宅が残ってほしいと思いました。旧粕谷家住宅を維持するのにたくさんのお金がかかることも分かりました。そこで、維持できなくなってしまったら、旧粕谷家住宅はどうなるのか質問しました。家は、何もしないでおくとぼろぼろになってしまい、いたんで壊れてしまうかもしれないそうです。旧粕谷家住宅が300年間残っているのは、ずっと人が住んでいて、手入れをしてきたからです。学芸員さんは、そんな大切な粕谷家を維持できるようにしたいと答えてくれました。クラウドファンディングのことも教えてくれました。管理棟と放水機などの消火設備を設置するために、クラウドファンディングで寄付を呼びかけていたそうです。3年間で300万円を目標にして達成し、管理棟と放水機が設置されています。このお話の中で、学芸員さんが「粕谷家は地域の宝物。」と言っていたのが、心に残っています。

⑤ 私が出来ること

今後粕谷家を残していくために、私ができることを考えました。粕谷家のことを知っている人が増えれば、今後クラウドファンディングが行われることがあったときに協力してくれる人が増えるし、実際に見に行ったりしてさらに粕谷家のことを広めてくれるかもしれません。そこで私が考えたのは、粕谷家について分かりやすく紹介する絵本を作り、まきば幼稚園に置いてもらうことです。もし園児さんたちが読んでくれたら、大きくなって

も粕谷家のことを覚えているかもしれません。もしかしたら、私みたいに調べてくれる子もいるかもしれません。そうしたら、園児さんだけではなく、いろんな人に粕谷家のことが広まるかもしれません。今年中に作ってみようと思います。

【参考にした資料】

板橋区立郷土資料館「いたばしの古民家」

【インタビューした人】

まきば幼稚園 島田 麻実先生

板橋教育委員会生涯学習課文化財係 学芸員の方

やつがたけのじょうもんのどうぐとくらし

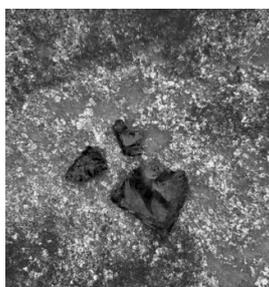
板橋区立向原小学校1年 和田 樹

1. はじめに

ぼくのおじいちゃんは、ながのけんのやつがたけにすんでいます。ぼくは夏休みに、いどじりこうこかんで矢じりをつくりました。つくり方は、しかの角で黒よう石のまわりをゴリゴリけずります。さいしょはうまくできると思いましたが、やるとかたくて、まわりにひっかからなくてむずかしかったです。こうこかんにてんじされている矢じりは、自分がつくったのよりも上手でびっくりしました。ぼくの黒よう石は、かたくて矢じりにできませんでした。かかりの人が大きい黒よう石は、にくをきるのにつかっていたとはなしてくれたので、やさいをきりました。



黒よう石としかの角



ぼくがけずった黒よう石



黒よう石できったやさい

やつがたけにはじょうもんのいせきがたくさんあります。ぼくはいろいろなどうぐやつくり方についてしらべました。

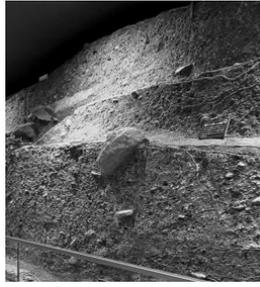
2. しらべたこと、たいけんしたこと

○黒よう石

黒よう石は、マグマからできたてんねんガラスで、黒くてかたくてまわりがとがっています。ぼくは、きりがみねの星くそかんで、じょうもん人がほんとうにほったあとを見にいきました。200こいじょうのあとがありました。ちそうをみると、じょうもん人がなんどもほったあとがたくさんみえました。星くそかんのまわりのじめんには、たくさん黒よう石がおちていました。きりがみねの黒よう石は、むさしのだいちまではこぼれて、つかわれていたそうです。じょうもん人にとって、黒よう石はたいせつなものだったのかなとおもいました。



じめんにおちていた黒よう石



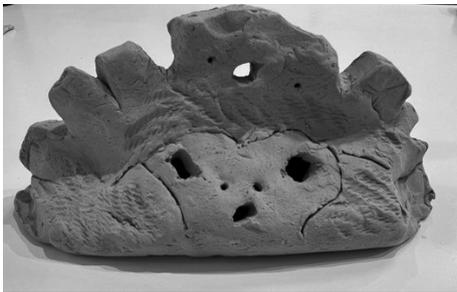
ほったあとのちそう

○ゆみや

ゆみは、木とひもでつくられていました。ゆみをひくのに、手の力がひつようで、ねらったばしょにはとびませんでした。いまはおみせにいくとすぐにかうことができるけど、じょうもん人は、えものがとれるまでかえれなかったのかなとおもいました。

○土れい

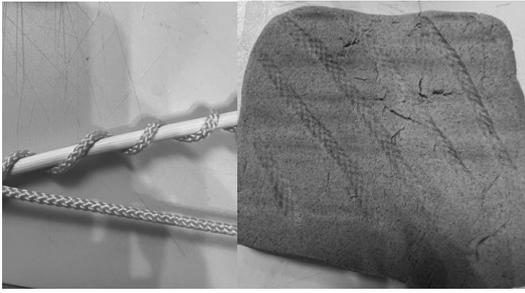
とがりいしこうこかんで、ねんどで土れいをつくりました。土れいは土でつくったことです。じょうもん人は、どきに土れいをつけていたそうです。ほくがつかっているおさらやバケツにはすずがついていないので、かみさまにおいのりするために、つかわれたのかなとおもいました。



ほくのつくった土れい

○じょうもんのもよう

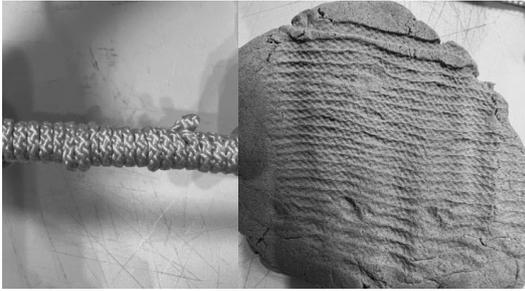
じょうもんはなわでつくったもようです。本をみて、いろいろなもようをつくりました。かんたんだとおもったけど、めざしたもようになりませんでした。



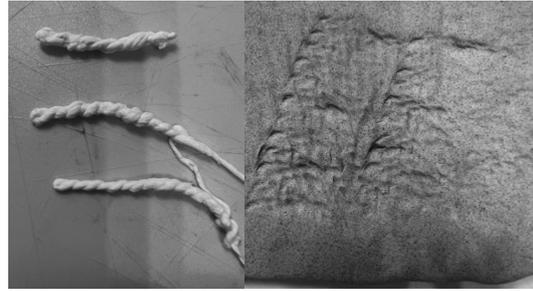
もよう1



もよう2



もよう3



もよう4

○すり石と石ざら

石でくりのからをわって、みをとってたべられるようにしました。くりのからはかたくて、手ではこわせませんでした。石をつかうとかんたんにくりのからをわることができました。



○たてあなたてもの

たてもののほねぐみは、木でたてられていました。やねとかべはくさでできていました。中にはいるとくらくて、土のおいがしました。中でひをおこしてあかりにしていたのかなとおもいました。



たてあなたてもの

3. まとめ

じょうもん人は、そざいをあつめるのもどうぐをつくるのもぜんぶじぶんでやらないといけなかったことがわかりました。つくるのにもちからがいるし、じょう文のくらしはとてもたいへんだなとおもいました。いまはすぐものがかえるけど、じょうもん人はじぶんでほしいものをとりにいかないといけないので、いまのぼくのせいかつはべんりなのだとおもいました。

【行ったばしょ】

茅野市尖石縄文考古館（長野県茅野市）

井戸尻考古館・井戸尻遺跡（長野県諏訪郡）

星くずの里たかやま黒耀石体験ミュージアム（長野県小県郡）

星くそ館黒耀石鉦山展示室（長野県小県郡）

【しらべた本・インターネットサイト】

國學院大學考古学研修室『考古学がよくわかる辞典』PHP出版、2010年

白石太一郎・設楽博己監修『学習まんが 日本の歴史1 日本の文化のあけぼの』小学館、2022年

狭山市公式ウェブサイト『縄文土器の 文様を作ろう！』

https://www.city.sayama.saitama.jp/manabu/dentou/cp_survey_report.files/jyoumonmonyoushi.pdf

京都国立博物館『博物館Dictionary No.232』

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/learn/home/dictio/kouko/232/>

毛呂山町の伝統行事「流鏝馬」を未来に残すために！

毛呂山町立泉野小学校6年 岩野 満優

ぼくが住む毛呂山町に行事として今に伝わっているものは、流鏝馬と、獅子舞が知られています。特に流鏝馬は、歴史民俗資料館の人に教えてもらった話では、江戸時代末まで8月と9月に行われていたそうです。現在では8月に行われていた流鏝馬が3月に、9月に行われていた流鏝馬は、11月3日に引き継がれ行われています。昔普通に各地で行われていた行事が、今見られなくなっています。今回取りあげた流鏝馬ですが、起源として1063年源義家が奥州征伐の凱旋の際、戦勝のお礼に当地を訪れ八幡社を建て流鏝馬を奉納したことが始まりだといわれています。埼玉県内で流鏝馬が行われていた地区が11あります。北から本庄市、秩父市、小川町、嵐山町、都幾川町、鳩山町、越生町、毛呂山町、日高市、さいたま市、戸田市です。この中で毎年行っているのが、毛呂山町の流鏝馬で、3年に1回行っているのが都幾川町の流鏝馬です。他の地区の流鏝馬は残念ながら行われていません。

なんで流鏝馬が行われなくなったのか、昭和34年まで流鏝馬を越生町は行っていたと町の民俗資料館の人に聞いたので、越生の文化財担当の人にやめた理由を聞きに行きました。担当の人の話では、大谷地区と西和田地区のまとう組が永いこと伝統を継承してきたけど、昭和34年に大谷地区がまとう組を抜けてしまったため、西和田地区の負担が大きく昭和41年の台風で流鏝馬が中止になったことを機会に、それ以降やらなくなったそうです。毛呂山には71の行政区があります。この行政区の一部が流鏝馬に深く関わっています。(祭礼区5・祭馬区14の19行政区)

流鏝馬を行うためにどんなことをするのか地区の役員さんに話を聞きに行きました。流鏝馬の担当は三つの祭礼区が行うそうです。

第一祭礼区(毛呂本郷) 第二祭礼区(小田谷と長瀬) 第三祭礼区(岩井と前久保)の三つの祭礼区です。この人たちが担い手になります。各祭礼区は、さらに14の祭馬区に別れ実際の運営は、輪番制により担当祭馬区が行うそうです。

流鏝馬に関わる人数乗り子3名、経験豊富な矢取り3名、口取り若者10～15名この人たちが表舞台で活躍します。

流鏝馬までの仕事は次のようなことをします。

毎年9月から10月下旬にかけて毛呂本郷の的宿で、祭具作り。各祭馬区でも馬小屋や祭具の準備。氏子総代が馬場に柵を設ける馬場結い。馬宿での馬の世話。川入れ(馬を清める)や、そそ湯(馬を洗う)。馬場での稽古。神社で一晩を過ごします。(お精進)。11月1日ノックミ行事。的宿では、乗り子の花笠につける房を作る(房きり)という儀式も行われます。

11月3日の本祭りでは、次のことをします。

追出の餅つき。一の馬から順に1回ずつ騎射。野陣、追酒盛、出陣、夕的の儀式。馬の爪切り、願的が行われます。矢的、センス、ムチといった馬上芸が行われその後、各馬に

よる射的が行われます。

流鏝馬の行事を支える地域の人たちには、各祭礼区から選ばれた数名の役員が氏子総代会として、馬場の草取りや整備、ミタラセ池の清掃、などを行ないます。流鏝馬保存会が保存、継承されるよう行事全般を支える役割を担っています。流鏝馬を守る会が的宿のしきたりを継承したり、祭具などを作ったりしています。このように流鏝馬の行事を行うためには、多くの人の協力が必要とされるので、流鏝馬が行われなくなった理由がわかるような気がします。ぼくの父も母も毛呂山生まれでなく、姉が生まれたときに毛呂山に引っ越してきました。家は前久保にあるので第三祭礼区になり、役が回ってきてもよくわからないと母がこぼしていました。このことからわかるように流鏝馬に関する知識が広く伝わっていないのが現状です。町の人口の推移というグラフから考えると、若年人口が減ることによる乗り手、口取りの確保なども難しくなると思います。また高齢化社会といっても、流鏝馬のことを知らない、経験のないお年よりの増えることも十分考えられます。

流鏝馬を守る会があるようですが、川角にいるぼくのおじいちゃんも流鏝馬保存会があることを知らなかったようです。このように流鏝馬は、関係する区の一部の人たちが知っているだけでは駄目で、町内の多くの人に伝達し、啓蒙していくことが必要だと思いました。そのための手立てとして以下のことを考えてみました。

- ・道具などを作成する講習会を定期的を開く。
- ・流鏝馬に関する啓蒙を広く行う。また限られた地域の人が担当するのではなく、広く町の伝統行事としてかかわる人のすそ野をひろげる。

子どもが騎手をつとめる流鏝馬は、全国的に見ても数が少ないと思われるので残していけるといいと思います。

参照した資料・話を聞いた人

毛呂山町史 やぶさめ紀行 ～毛呂の流鏝馬児のやぶさめ～

毛呂山町歴史民俗資料館の学芸員さん 越生町文化財担当の人

毛呂山流鏝馬保存会の方 グラフで見る毛呂山町

<https://jp.gdfreak.com/public/detail/jp010050000001011326/11>



祭具作り



出陣

大好きなお米

板橋区立弥生小学校6年 松田 紗英

私はお米が大好きです。

炊き立てのご飯、学校の給食、お母さんのおにぎり、私のエネルギーとなっているお米。一時期、お米がスーパーから消えて、お母さんがインターネットで探して見つけたけど、高いなあ。と言っていた記おくがあります。

夏休みにお父さんと商店街に買い物に行き、お米屋さんの前を通りました。以前から気になっていたので入ってみました。私はお米屋さんでお米を買うのは初めてでした。板橋区仲宿にある、小川米店。

明治時代からあり、創業150年以上で、初代は筆屋さん、2代目からお米屋さんになったそうです。



昭和時代の写真



現在の写真

店にはいろんな地域のお米が、30種類くらい並べられていました。お店の人におすすめのお米を聞いて、千葉県産の新米ふさこがねを2キロ買いました。お店の中に精米機があって、見せてもらいました。まず玄米の状態の重さを量ります。それから精米機に入れます。2分くらいでいつも見ている白いお米が出てきました。精米するところを見るのも初めてで、ぬかが取れた分、最初の重さより200グラムくらい減りました。



精米機



玄米の状態のお米



精米されてできたお米

私はお米屋さんからお話を聞き、貴重なものをみせてもらいました。

(私) 大変なことはありますか？

(店主) お米を仕入れるのが大変。特に去年の米不足の時は大変だった。

(私) お米はどこから仕入れていますか？

(店主) 3つあって、農家から直接、組合から、おろし問屋さんから。

(私) どのようなお米が人気ですか？

(店主) ねばり気があり、甘いお米が人気です。



一般用米穀類購入通帳 (米穀類の配給を受けるために発行された購入通帳)



日本米価格の歩み



炊いたお米

昔はお米を購入するのに制限があったことを知り、今は自由に買うことができる環境がありがたく感じました。当たり前になってしまっているお米も、時代をめぐって大切に受け継がれてきたもの。これからも受け継いでいかなければいけないと思いました。

現在はもう暑、水不足、地域によってはごう雨被害、稲作にとって大変だと思います。

そんな中でも私たちに美味しいお米を仕入れてくれるお米屋さん、作ってくれる農家さんに感謝しながら、今まで以上に味わいながら食べようと思います。

早速うちに帰って、なるべく冷たい水から炊くと良いよというアドバイスどおりに炊いてみました。つやつやで甘みがあってとても美味しかったです。30種類全制はしてみたくなりました。

お米屋さん、ありがとうございました。

ごちそうさまでした。

お話を聞いた人 板橋区仲宿商店街 小川米店 店主

重要無形民俗文化財北野神社田遊びについて

板橋区立紅梅小学校4年 中尾 碧玖

ぼくの育った町には、北野神社という神社があります。その神社には昔から、田遊びという行事があります。その行事は、旧れき正月11日（毎年2月11日）にその年の五こくほうじょう、子孫はんえいを願って、神にほうのうする行事です。一年のいな作の作業内容を言葉や歌、所作で田の神にほうのうし、ほう作をいのる祭りで、板橋区では徳丸北野神社田遊びと赤つかすわ神社田遊びが、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

北野神社の向かいにある、郷土芸能伝承館にあった本には、田遊びで使う物は、和太鼓、つづみ、せんす、さかきの葉、たねもみ、やなぎの枝、牛のお面、おもち等が使われ、稲作を表現していることが分かった。おもちのついた枝を持ち、歌や所作で祈りをささげます。牛のお面をかぶった人がだん上で歩き、田をならす表現をします。また、子供を早乙女として和太鼓の上でどう上げし、神様に祈りをささげました。伝承館には写真や、じっさいに使われた道具もかざられていて、田遊びのことが分かりやすくてんじされていました。国からの感しゃ状もかざられていて、とても大切な行事であることが分かります。

ぼくは小さいころ、早乙女として胴上げをされました。四才のころだったので、初めは何をしているか分からなかったけれど、調べていく中で、写真や画像から、意味のあることをしていたのだと気付きました。ぼくの父も早乙女の経験があり、2代にわたってその伝統行事に参加できたことをうれしく思いました。ぼくのおじいさんもその上のおじいさんもこの行事に参加していて、家族みんなで大切にしてきた行事であることがわかりました。ぼくのおばあさんに早乙女は誰でもなれるのか聞いたとき、その年の田遊び保存会の人が、地元の子供から選んでいると聞き、だれでもできることではないこともわかりました。

田遊びと聞いて、ぼくは初め水遊びだと思っていたけど、神様にその土地の安全や食べ物に困らないよう願いをこめる大切な行事であることを知りました。なぜ、田んぼや畑がなくなった今でも続いている行事なのかふしぎに思いましたが、人々が日じょう生活の中で、考え生み出してきたものを、次の世代につないでいくことが大切だと考えられてきたからだと知りました。重要民族無形文化財について調べたとき、これは人々の生活のうつり変わりをりかいする上で重要なことであるため、すでに無くなっている習慣であっても、次の世代にのこすことで、昔を忘れず、りかいを深めることにつながると書いてありました。今の自分の生活があるのは、昔の人の生活や知識がよりよく変わってきたからなのだと思います。

ぼくの父も、おじいさんも、そのまた上のおじいさんもこの行事に参加し、伝とうをつないでいます。毎年行われるこの大切な行事の意味をりかいし、この町の安全や生活のゆたかさをいのって見守りたいと思います。また、ぼくの子供が生まれたら、参加させて、大切な行事をつないでいきたいです。

参考資料：

- ・豊穰への祈り（第56回東京都民族芸能大会IN ITABASHI）
- ・いたばしの郷土芸能 田遊び 文化財シリーズ 山吹書房







京都の人々に親しまれている酒呑童子伝説

京都市立御所東小学校5年 河内 里香

『桃太郎』の鬼、節分、なまはげ、「鬼のパンツ」という歌、マンガ『鬼滅の刃』…鬼はいろいろな姿で私たちの暮らしの中に生きている。

京都の有名な伝説の一つに酒呑童子という鬼の伝説がある。私は学校の先生に大江山に酒呑童子がいたことを聞いた。インターネットで福知山市に「日本の鬼の交流博物館」という場所があると知って、酒呑童子はどんな妖怪だったのか、そして実在したのかについて調べに行った。

酒呑童子の話は『御伽草子』にもなっている。今から千年前、都（京都）で姫たちがたくさん連れ去られていた。それは酒呑童子という鬼の仕業だとわかった。天皇の命令により源頼光、藤原保昌、渡辺源吾綱、坂田金時、みなものよりみつ ふじわらのやすまさ わたなべのげんごつな さかたのきんとき うらべのすえたけ うすいのさだみつ卜部季武、碓氷貞光が大江山に鬼退治に行くことになった。6人は山伏に変装した。行く途中に3人の老人と会った。この老人は実は神様で、鬼を退治するための神便鬼毒酒や星兜をくれた。じんべん きどくしゅ ほしかぶと神便鬼毒酒とは人が飲むと力が増し、鬼が飲むと毒となるお酒である。6人は酒呑童子の家に泊めてもらって、酒呑童子と宴を開いた。みんなで神便鬼毒酒を飲み、踊った。酒呑童子も手下の鬼も酔い潰れた時に、頼光は星兜をかぶって酒呑童子の胸をさした。そして酒呑童子の首を切ったが、酒呑童子は首が落ちても噛みついてきた。しかし、星兜のおかげで頼光はけがをしなかった。6人は、助けた姫たちを都へ連れて帰った。酒呑童子の首は都中の大路を引き回されて、七条河原で7日間さらされた。その後、大江の坂にほうむられて首塚明神と名前を付けられて、丹波街道の守り神とされた。これが「酒呑童子」伝説のあらすじである。

物語や、博物館の絵巻や説明から、次のような酒呑童子の特徴がわかった。身長は3mで容姿はよく、年は40歳ぐらい。お酒が大好きである。普段は人間の姿だが、奥の部屋で寝ている時は巨大な赤鬼で、都から連れ去った姫を近くにおいて体をマッサージさせている。生まれ故郷は越後の国で、母親の胎内たいたいに16か月もいたこと、生まれながらに歯が生えていて、5、6歳の子のように話して歩いたという。鬼子と言われて、父母のもとで育てられずに、18才まで寺に預けられて修行した。

私が感じたのは、酒呑童子は姿が鬼になっても、まだ人間の心を持っているということだ。頼光たちが鬼退治のために来たときと疑ってしまったときと照れ笑いを隠して話す、恥ずかしがり屋の面もある。また、小さい時から鬼子と言われて親から離され、1人で寂しい思いをしてきたと思う。だから、お酒を飲んで寂しさを紛らわしているのかもしれない。

私が住んでいる京都市から大江山の日本の鬼の交流博物館まで車で2時間ぐらいかかった。大江山に住んでいる酒呑童子は都に行って姫を連れ去っていたというから、すごい体力だと思った。

博物館の展示には、酒呑童子が人間から鬼の顔になったことについても書いてあったが、

2つの話がある。1つは、酒吞童子のことを好きだった娘が死んでしまって、動揺した酒吞童子の顔が鬼になってしまった話である。酒吞童子は美男子で、若い娘からたくさん恋文が来たが、修行に励んでいた。ところが、ある日、酒吞童子に恋焦がれた娘が身を投げて死んでしまった。酒吞童子が読まずにしまっていた恋文のつづらを開けると、紫の煙が立ちのぼり、酒吞童子は鬼の姿になっていた。恋文を燃やしている時に、その炎に顔を焼かれて、鬼の姿になったという本もある。

もう1つは、「鬼」＝「タタラ師（製鉄所で働く人）」説である。製鉄には鉍毒がつきもので、汚水が流れてくる里の農民たちには、製鉄への恐怖や嫌悪感があった。炎に焼けただれたタタラ師の顔は鬼とまちがうものだっただろうと書かれていた。

展示の説明をしてくれた職員さんに「鬼は本当にいましたか」と聞いてみたところ、職員さんは「鬼は実在しない」と答えてくれた。源頼光たち6人は実在した歴史上の人物だけれど、酒吞童子は実在しないと教えてくれた。私は、頼光たちが偉大な人だったことを伝えるために、酒吞童子が使われているのだと思った。酒吞童子はとても強い一方で、悲しい過去があって、切ないから、みんなに大切にされていると思う。

私は今回、実際には行かなかったけれども、京都に、鬼の岩屋や首塚大明神など酒吞童子に関連する場所がたくさん残っているのは、京都の人々がずっと酒吞童子に親しみを持っているからだと思う。

次は、酒吞童子はほかの鬼とどのような点が同じか、または違うかを比べてみたい。

参考文献

大江山鬼伝説一千年祭実行委員会／鬼文化部会（1990）『大江山の酒吞童子』

日本の鬼の交流博物館（2010）『福知山の酒吞童子伝説』

日本の鬼の交流博物館ホームページ

<https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/onihaku/>（2025年8月25日参照）



写真1：日本の鬼の交流博物館の入り口にある、大江山平成の大鬼



写真2：大江山に向かう山伏姿の頼光たちの人形